

編集後記

◆新春早々、管理職の人たちにとって、他人ごとはいえないシヨッキングなニュースが流れた。中間管理層の「肩たたき」である。「判官びいき」の立場にたてば、決して許される企業行動ではないであろう。もし筆者が同じような境遇におかれたならば、妻や子供、隣近所、親戚、会社の部下や同僚にたいしてどのような顔向けができるだろうかと考えただけでも、精神的にダメージの大きいできごとになるであろうことは容易に察しがつく。

◆しかし冷静になって考えてみると、戦後から今日にいたるまで、このような現象は日常茶飯事に起こってきているのではないだろうか。思いつくままに並べてみても、首切り、指名解雇、窓際、関連会社出向、「飛ばし」、「干される」などは、どの会社でも行ってきた行為ではないだろうか。たまたま、景気の後退期に起こった現象なので、心情的に「許せない」ということになったのではないかと考えられよう。

◆本来、人間は経営資源の中でも、価値を生み出すことのできる最も重要な資源であ

り、組織体はその資源の価値増殖のあり方を真剣に考えるべきであろう。不要になった部品のように、簡単に取り替えたり破棄したりするのは、一九三〇年代のアメリカの経営にすでにみられた現象である。その悪弊が二十一世紀に向かう日本において依然として踏襲されていることに問題が潜んでいるというべきであろう。個人の側も組織に「おんぶにだっこ」で無機質的に生きるのではなく、自己生成や創造を常に怠らないうような個人であれば、組織と対等にわたらざるはざるである。日頃から、部品にならないような創意工夫が望まれよう。

◆本号は、担当者の怠慢で原稿募集が大幅に遅れてしまった。そのため特集も組めない状態での発行となってしまった。お詫びすると共に、次号以降の編集担当者に、決して真似てはならないサンプルとして胸にとどめていただければ幸いである。激しい議論が戦わせられるような広場（フォーラム）を期待してやまない。（E）

学校法人 神奈川大学国際経営研究所

所長 衣笠 洋輔

編集委員 海老澤 栄一

衣笠 洋輔

国際経営フォーラム 第四号 ISSN 0915-8235

● 1992 by Kanagawa University

（年一回発行）非売品

編集 国際経営研究所広報委員会

発行人 衣笠洋輔

発行所 学校法人 神奈川大学国際経営研究所

〒二五九一―二二 平塚市土屋二九四六

電話（〇四六三）五九一四―一一（代表）

FAX（〇四六三）五八―九六八八

印刷 有限会社 金子印刷

〒二五四 神奈川県平塚市田村一五八五―一

◇本誌ご希望の方は、送料実費として切手二一〇円を添えて、右記国際経営研究所広報委員会宛お申し込みください。在庫切れの節はご容赦ください。

◇本誌掲載記事・論文の一部または全部の転載は、事前に著者または広報委員会から直接書面による許可を得た場合に限られます。